

令和3年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（乾隆幼稚園）

教育目標

心身ともに健やかで、生き生きと遊ぶ子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し <ul style="list-style-type: none">・今年度もコロナ禍が1年間続いた。プールでの水遊び等、昨年度と違いできたものもあるが、参観ができなかったり、園外保育が思うようにできなかったり厳しい状況であった。・園内での保育では、身近な環境に関わり、夢中になって遊ぶ子どもたちを目指し取り組んできた成果は出ていると思う。しっかり体を動かす遊びを通し、他者との関わりの中で楽しく遊ぶ姿も見られた。・特に少人数の園として、異年齢の活動に力を入れたことは効果的であったので、主体的に遊ぶ姿、自己肯定感を育てるためにも、次年度も継続したいと考える。
------	--

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">・季節を感じる畠の運営や行事、特色としての機織り等々“夢中になって遊び込む”ことで就学前の土台づくりをするという公立幼稚園の保育はとても良いと思う。掃除が行き届いた園であり続けてほしい。・教職員は子どもたち一人一人を見ているが、園児数を増やす手立てを考えていかなければならない。コロナ禍で子育て支援の取組はしにくかったと思うが、次年度から預かり保育は早朝保育を実施することになったのは良かった。
---------	--

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月21日	学校運営協議会 理事
最終評価	3月15日	学校運営協議会 理事

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・少人数の園だからこそできる保育を考えると共に、異年齢の取組を増やすことで自律性（折り合う心）を育む保育を実践する。
- ・子どもが心身ともに健やかに育つための安全安心な環境づくりを絶えず見直し、改善を図る。
- ・子どもが夢中になって遊び、自分の力を發揮し、友達と関わる楽しさや協働する喜びを感じるための教員の援助や環境構成を行う。
- ・保育の専門性を高め、子どもの育ちを保障していくために、園内研修を充実する。
- ・子ども一人一人へのねらいをもち計画性をもった保育と子どもの姿から一日の保育を振り返り、改善していくP D C Aサイクルの確立（週案・個別の指導計画等の活用）。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・幼児の姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討

- ・アンケート項目①「幼稚園は教育目標に向けての保育を行っている」②「幼稚園の環境は安全で子どもが豊かな体験ができるよう整えられている」⑧「子どもは楽しく幼稚園に通っている」⑨「子どもは今夢中になっているものがある」

中間評価

各種指標結果

・コロナ禍とはいっても、本年度は4月からスタートを切ることができた。それでも緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が続き、予定通りに進められなかつたことも多かったことは否めない。ただ、子どもたちはコロナ対策を守りながら、日常の遊びを楽しみ成長している。そのための保育者の支援は試行錯誤をしながらも今年度の状況を鑑み取り組めている。

- ・アンケート結果①A90% B10%②A70% B30%⑧A77% B23%⑨A57% B43%（すべてAB100%）

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数だからこそ力を入れている異年齢の活動も自然に取り組めている。同じ活動をしてもクラスによりそれぞれの付けてほしい力は別なので、さらに検証していきたい。 ・コロナ対策で消毒をすることや保育中の換気を確認することで、教職員の安全な環境についての意識は高まっている。遊具の補修や木々の剪定など今後も継続していきたい。 ・園内研修は計画的にできている。週案の活用もできている。援助や環境構成、異年齢の取組など教員の力量を高めることで子どもたちが楽しく遊ぶ姿をより高めたい。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・園児数が少なく、目が届く長所の反面、関わりすぎる短所もある。異年齢で子ども同士の関りを増やすことと教員の関わり方については絶えず研究していきたい。 ・コロナ禍の取組も慣れてきたところであるが、今後必要な感染対策と情勢の変化についてはアンテナを広げ、子どもたちがより夢中になって遊べる方策を考えていきたい。 ・リモートの研修が多くなったが、他園の取組から学ぶこともとても多いので園内研修から他から学ぶところを増やしていきたい。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・園の環境や保育がより高みを目指しているか。次年度の園児数も更に減少傾向にあり、異年齢の取組が子どもたちにとって効果的なのかどうかを特に検証する。 ・保護者のアンケートや日常の保護者からの聞き取りから検証する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・乾隆幼稚園を選ぶ保護者の方だから、幼稚園の取組について知っているのが当然である。特に季節の果実や野菜栽培などの取組は良い取組だと考える。異年齢も含めて、色々な取組を進めてもらいたい。 ・幼稚園の紹介ビデオもでき、園児の募集に力を入れているのもよくわかる。無償化や就労、通園の距離、いろいろな要素があるのだろう。 ・参観ができなくても、幼稚園は毎日の送迎で保護者と顔を合わせ情報交換できるのは良い。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

・中間評価以降、少し感染拡大が弱まったものの3学期になり第6波がきて、まん延防止等重点措置も3月下旬にまで延長された。そんな中、運動会は参観してもらえたものの生活発表会は参観してもらえず、その他の行事も予定通りにはできない年度末になった。

・コロナの感染対策が定着し、マスク生活も日常になった。その影響については今後検証しなくては

ならないと思う。ただ園内では、子どもたちはのびのびと遊び、楽しく過ごすことができた。

- ・アンケート結果 ①A83% B17% ②A53% B47% ⑧A87% B10% C3% ⑨A77% B23%

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・後期も様々な制約がある中、感染対策を講じながら効果的な保育を話し合い取り組んできた。できる範囲で取り組んできた異年齢での活動は効果的であったと考える。
- ・1年間通しての栽培活動は機能した。盛大にパーティーは開けなかつたが、節目の行事は子どもたちにとって意味のあるイベントであった。
- ・研修はオンラインが多く、回数も減った。ただコロナ禍の研修として、新しい研修の在り方でもあった。教職員の力量を向上させる一助にはなつたと思う。
- ・環境整備は今年度も力を入れた。安全安心の環境については次年度も優先項目と考えたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・教育目標に迫るためにには、夢中になって遊び込める保育内容について研修を深めなければならない。感染対策は継続しつつ、環境構成の工夫や異年齢の取組を推進していきたい。
- ・外での研修が少なくなった分、園内での研修をより充実させなければならない。
- ・安全安心の環境を確保することは最優先に考えたい。点検や簡易な補修など教職員ができることは率先して行い、できないところは計画的な予算執行で早急に対処したいと思う。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・「いつも掃除が行き届いていてよい」というアンケートの記述があったように、良い環境で保育したいという気持ちが伝わってくる。環境整備に力を入れていることも園の強みである。
- ・園児数が減っていると聞くが、制度面が大きな要因だと思う。保育内容の充実に力を入れ、公立幼稚園の良さを今後も伸ばしていってもらいたい。

（2）幼小連携・接続に関して

具体的な取組

- ・乾隆小学校、紫野小学校との連携、交流を通して教員の相互理解を図り、幼小の円滑な接続を推進する。（交流のための年間計画）
- ・乾隆小学校、紫野小学校、西陣中央小学校への保育公開、授業参観、合同研修
- ・小学校期の学びにつなげる「学びに向かう力」の育成を意識した保育を推進する。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・交流の事前・事後の検討内容について
- ・公開保育・合同研修の回数・内容
- ・アンケート項目③「保幼小連携、地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっている」

中間評価

各種指標結果

- ・休校・休園措置にはならなかつたものの、緊急事態宣言やまん延防止等特別措置が続き、交流についてはほとんどできていない。合同研修どころか参観すらできなかつた前期であった。今年度もコロナ禍により検証しにくい状況が続いている。
- ・乾隆小学校とは互いの学校運営協議会の委員となり、日常的に情報交換している。
- ・アンケート結果③A40% B57% 無3%

自己

分析（成果と課題）

- ・今年度も昨年度に引き続き、交流についてはほとんどできていない。教職員が参観に訪れる

評価	<p>こともほとんどできず、子どもについては皆無であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事予定のやりとりや入園ポスターを依頼に行くこと等、必要最低限のことのみであった。 ・緊急事態宣言やまん延防止等特別措置が続き、交流どころか、それぞれで保護者参観ですらできない状況であった。ただ、実際に対面での幼小連携はできなくても、何らかの方法でつながらなくてはならないと考えている。 ・保護者アンケートからも幼小連携には期待しているが、今年は見える部分は少ないと感じている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の状況にもよるが、今後、できるようになった時のために校長、園長段階、教職員のところでのつながりはもち続けるようにしたい。 ・今後、後期に向けて、幼小接続がスムーズになるよう合同の研修がもてるようになれば計画し、就学支援シートをはじめ個別の子どもたちの引継ぎもしていきたいと思っている。 ・運動会の練習のため運動場を借りる時に年長児が挨拶するようにしているが、小学校の対応のおかげでより親しみを感じている。今後もできる範囲で直接体験できる場面を増やしたい。 ・学習発表会や生活発表会など子どもの姿を見られる機会が教員にも子どもにももてるようになれば行いたい。 ・幼少連携について、実践できた部分についてはわかりやすく発信する。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でもできる幼小連携を考えられたか。特に卒園児を各小学校にうまくつなぐことができたかを検証する。 ・保護者のアンケートや日常の保護者からの聞き取りから検証する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で保護者参観ができず、また地域の者が来賓で行事に参加することもできない状況が続いているので、今の幼稚園の様子が話を聞かないとわからない。 ・幼稚園が小学校とつながっていることはとても大切なのでできる範囲で以前のようにできるようつながっていてもらいたい。
最終評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3学期に入り、再度まん延防止等特別措置やその延長が続いた。「交流」については、ほとんどできていない。保護者参観ができず、教職員の合同研修ももてなかつた。今年度も年間コロナ禍により検証しにくい状況が続いた。 ・小学校の作品展に参加させてもらい、子どもの交流なしでの作品交流はできた。修了児の入学前の情報交換はそれぞれの小学校ともつようによっている。 ・乾隆小学校とは、互いの学校運営協議会の委員となり日常的な情報交換は継続した。他の小学校や施設との連携は皆無であった。 ・アンケート結果 ③A43% B54% C3%
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が解消せず、運動会、マラソン大会の会場や凧あげの場所として小学校の運動場を借りたことや、小学校の作品展に作品参加させてもらうことぐらいしか交流できなかつた。子どもを通しての交流、連携まではできなかつたので、つながりを絶やさないように考えた。 ・3学期も保護者参観のできない状況が続いた。保護者アンケートにCがあるのは、今年度、子

	<p>ども同士の交流がほぼできなかったことにより、幼小連携が見えにくく、印象に残らなかつたことが要因であると考える。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの状況がすぐに好転するとは思えない。どのぐらいの時期から、コロナ禍以前の交流に戻せるかは不明であるが、状況を鑑み、できることを探りつつ連携を再始動していきたい。校長、園長段階、教職員のところでのつながりはもち続けたいと思う。 ・修了児の小学校との連絡協議は、就学支援シートをはじめ個別の子どもたちの引継ぎも含めてもつようにしたい。 ・進められた交流や連携については、わかるように発信していきたい。見えにくい状況にあるからこそ発信方法は工夫したいと考える。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が収束しない限りは、思うような幼小連携はできないと思う。できる範囲のことを考えて、つながりを絶やさないことが、今後も大切ではないか。 ・互いの子どもの交流がもてなくとも、教職員同士の連携がとれていることが次につながると思う。新しい幼小連携を考えることも必要かもしれない。

(3) 預かり保育に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会全体で子育てを支えるうえで預かり保育が果たす役割を認識し、地域に周知するとともに、地域資源の活用を含め、その充実を図る。新2号や預かり時間の広報にも努める。 ・安心安全な環境で家庭的な雰囲気をつくる。 ・預かり保育指導計画を見直し、より望ましい活動を実施する。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数とその活動内容や指導計画の見直し状況 ・新2号についての問い合わせ件数、利用家庭の割合 ・アンケート項目④「さくらんぼ組や預かり保育等の子育て支援の取組があることを知っている」 ⑫「子どもは楽しんで預かり保育に参加している」

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数については、年少組の新2号認定でない方が参加できるようになってから21名と増えていい、これは全体の70%に当たる。 ・年度途中にも新2号の新規申し込みが3件あり、現在新2号の利用家庭は全体の28%になる。母数が減少してきているが、ほぼ前年と同等と言える。 ・アンケート結果④ A90% B10% ⑫利用者は全体の70%中 A62% B38%
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在園保護者の預かり保育についての認知度は高い。また必要に応じて利用されている。毎年のことであるが早朝預かり保育の希望は少なからずある。 ・一昨年度まで実施していた預かり保育時のサッカー教室や絵本の読み聞かせについてはコロナ禍のため現在実施できていない。特に時々、体を動かすことをしてほしいという要望もあるので、状況を見て預かりの内容は検討していきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・入園説明会の話題の一つにいつもある。在園していない層にも広報は必要である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も必要な方に、適正に利用していただくよう、就労家庭からの入園児が増えるように預かり保育の広報に務めるとともに、内容を絶えず考えていく。 ・狭い空間でもあるので、人数が多くなった時の安全面は絶えず考えていきたい。特にコロナ禍でもあるので換気や消毒も含めて安全、安心な預かり保育を目指す。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育や内容を含め、その運用が適切に実施されているか。 ・預かり保育の制度が十分に認知されているか検証する。 ・保護者のアンケートや日常の保護者からの聞き取りから検証する。

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園児数を増やすことに預かり保育が果たしていることは確かだと思う。早朝預かり保育を実施している園があるのなら情報を得て議論していくとよい。 ・新2号認定であれば無償化の対象になることや18時までの預かり保育が必要であれば活用できることなど未就園児にも届くように発信する方法も大事ではないか。
-----------------------------	--

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数は23人で全体の77%になる。新2号認定者は全体の3分の1である。長時間保育はそのうち限られるが、毎日数名の利用がある。 ・ほぼ全家庭で預かり保育があることは認知されている。今年度もコロナ禍の関係で就労形態が変わった家庭もあり利用数は減った。保護者は必要に応じて活用できていると思う。 ・アンケート結果 ④A80% B20% ⑫利用者は全体の77%中 A61% B39%
自己 評 価	<p>分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍、年間を通じて預かり保育の利用を控える傾向はあったが、概ね必要に応じて利用されていると思う。また朝9時からの就労に間に合うように早朝預かり保育の希望の声は出ている。 ・預かり保育で行っていたサッカー教室や絵本の読み聞かせについては今年度も中止にした。 ・年少組の子どもたちも年度末には抵抗なく預かり保育が利用できるようになっている。アンケートの結果からも楽しんで預かり保育に行っている子どもが多い。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍、水曜日の昼食時、毎日のおやつ時の感染対策に苦慮した。パーテイションは当然であるが場合によっては部屋を別にした。安全面を担保するためにも、預かりの担当教員と他の教職員やボランティアの方も含め、複数での保育も取り入れた。 ・入園についての問い合わせの中でも預かり保育のような制度面が多い。入園説明会等で、在園していない層にも広報は必要である。積極的に広報ができるようにしていかたい。次年度より、午前8時からの早朝の預かり保育が始める予定である。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児数を増やすには預かり保育は重要な要素になる。幼稚園紹介動画等により以前より広報にも力を入れていると思うので、未就園の方にも広く知ってほしい。 ・早朝保育が全園で開始されることは幼稚園の願いが叶ってよかったですと思う。ただ教職員の負担が増えない工夫は働き方改革もあるので必要であると思う。

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組

- ・保育公開や自由参観などの教育発信に努め、開かれた幼稚園づくりを推進する。
- ・地域の児童館や地域諸団体との連携を図り、子育て相談や園庭開放を実施するなど、地域の子育て支援センターとしての役割を果たす。
- ・園庭開放を行うことで未就園児保護者が気軽にに入る空間づくりを考える。できだけ未就園クラス「さくらんぼ組」には顔を出し、気軽に相談を受ける雰囲気をつくる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・子育て支援の取組回数や参加人数、教育相談件数
- ・未就園児保護者へのアンケート、聞き取りを実施する。
- ・アンケート項目④「さくらんぼクラスや預かり保育等の子育て支援の取組があることを知っている」

中間評価

各種指標結果

- ・子育て支援の取組や教育相談については、コロナ禍が継続し前期は予定通りにできていない状況である。誕生会の後の「ほっこり子育て広場」も延期のままになっている。
- ・今年度は4月から幼稚園の活動が始まった。幼稚園では保護者の送迎があるため、その時に園の様子を見てもらったり、コミュニケーションをとったりすることはできた。
- ・未就園児の「さくらんぼ組」も4月からできたので、毎回顔を出し、保護者の意見は聞くことができた。
- ・アンケート結果④A90% B10%と在園児保護者には認知されている。

自己評価

分析(成果と課題)

- ・今年度も休日参観や祖父母参観は中止した。その時を利用して幼稚園での様子の話を聞いていただいていたが、そういう口コミが大きく減少したことは、乾隆幼稚園自体の認知にも影響が出ていると考える。
- ・送迎時の保護者との会話や園庭開放の効果は大きいが、在園児保護者以外に広がっていないことは課題である。
- ・「ほっこり子育て広場」も年度末まで形を変えて再開したい。
- ・「さくらんぼ組」の活動日には必ず園長が顔を出すようにし、いつでも幼稚園の説明ができるように考えたが、新規の開拓にはなかなかつながらなかった。

分析を踏まえた取組の改善

- ・コロナが落ち着き、行事などの参観がよりできるようになってくると、保護者や未就園親子を対象とした催しを企画し、在園保護者の声を未就園保護者にも届くようにしたい。
- ・ホームページや幼稚園紹介動画を活用し、園の取組を知ってもらうきっかけとする。小規模保育園への働き掛けも強化したい。
- ・さくらんぼ組の日には教職員が意識して、来園者に声掛けをしていこうと考えている。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・未就園児クラスへの働きかけや子育て支援の取組についての実施状況をみる。
- ・保護者のアンケートや日常の保護者からの聞き取りから検証する。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・保育会（PTA）が「七夕まつり」で「ゆずります会や手づくりバザー」を開催したときに新しい方も含めて、多数来園したと聞く。保護者の生の声は大きいと思うので今後も考えてはどうか。 ・さくらんぼ組の日数を増やしたり、曜日を組み替えたりはできないのか。難しいが新規の未就園児を増やすことは考えていく必要がある。

最終評価

自己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大状況が改善せず。再開しようと計画していた子育て支援の取組や教育相談については、予定通りにできていない状況が学年末まで続いた。 ・誕生会の後の「ほっこり子育て広場」も延期のままになっている。3月に形を変え1回は実施しようと計画したが結局実施できなかった。 ・未就園児の「さくらんぼ組」は1月の下旬から子どもの感染拡大を受け休止した。緊急事態宣言下でも実施してきた取組だけに残念であった。その間、新規の問い合わせはあった。 ・西陣児童館と共に音楽鑑賞会は2学期の後半に未就園児対象として1回実施できた。 ・アンケートから在園保護者の認知はかなり高いことがわかる。④A80% B20%
自己 評 価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらんぼクラスの予定表などは前月の早いうちにホームページに載せるようにした。小規模施設にも案内するようにした。また「さくらんぼ組」の活動日には園長が保護者と話をするようになってきた。新規の問い合わせもあり一定の効果が見られたが、コロナ関係で2月3月と休止したことでつながりは途切れてしまった。 ・コロナ禍、入園説明会、子育て支援の取組など全般、計画通りにできなかった。生活発表会は保護者参観にも制限がかかった。その関係で未就園児を招待することはできなかつたことや「ほっこり子育て広場」が1回も開催できなかつたことは次年度への大きな課題である。
学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの状況にもよるが、活動できるもち方についてアイデアを出し合い考えていきたい。少しずつでも、具体的な取組が推進できるように考えなくてはならない。 ・さくらんぼ組の場でなくても、ホームページや幼稚園紹介動画を活用したり、園見学を広報したりすることで園の取組を知ってもらいたいと思う。次年度も意識していきたい。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組も新型コロナウイルス感染拡大の影響をそのまま受けていると思う。その中でも工夫してやれることはやろうとしているところが良い。 ・年間で言えば、幼稚園紹介動画などの広報は、とても効果的であると考える。さくらんぼ組が再開し、新たな工夫を考えていくのが良いと思う。

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会委員の方との情報交換や連携強化に努め、関係者評価を活用し、教育活動の改善を図る。また積極的に地域の行事に参加するなど、地域とのつながりを大切にする。 ・地域の資源を活かした指導計画を作成する。 ・自園の取組や教育内容をHPや幼稚園地域版だよりで発信し、開かれた幼稚園づくりする。

(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> 日々のつながりから、地域の方々の声を受け止める。 アンケート項目③「保幼小連携、地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっている」
中間評価

各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> 今年度も昨年度同様にコロナ禍のため地域での参加行事が中止になった。教員のレベルでもつながりがもてなくなり、子どもたちが地域の行事に出てのアピールもできなかった。2年間のプランクは大きいと考える。 幼稚園が行う地域の方に参加していただいている行事も本年度は中止や縮小での実施になり、見てもらう機会がとても減った。保護者の方にはこの項目も見えにくくなっている。 アンケート結果③A40% B57%無 3%
自己評価
<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域女性会の方が取り組んでいる「乾隆学区『快適でエコな居場所づくりプロジェクト』」に今年も参加させていただき「洛いも」の緑のカーテンに取り組んだ。 乾隆交通安全会の方にはいつも登園時に見守っていただくほか、徒歩での園外保育時に協力も得られた。 コロナ禍で2年間地域行事が中止になったことで、次年度に引き継いでいくことが課題であると思う。本園の特色である織機の取組は今年度もご協力を得られる予定である。
分析を踏まえた取組の改善
<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の方には毎月、幼稚園のお便りを届ける。その時に直接、配付するようにして地域の状況を把握するように努める。 コロナ禍でもつながれる内容を考え、できる範囲で地域の方とつながりをもち、関係が絶えないよう努力する。 西陣児童館との共催での未就園児への取組はできる範囲で復活させていきたい。
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
<ul style="list-style-type: none"> 日々のつながりから、地域の方の声を受け止められているか。 保護者のアンケートや日常の保護者からの聞き取りから検証する。
学校関係者評価
<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍であるとはいえるが、地域の方のご協力を得られているのは地域に根差した幼稚園と言える。交通安全会の方が幼稚園の登園まで見守っていただいていることは有難い。 地域誌の発行やお便りを配ってもらっていることで、幼稚園の様子がよくわかってよいと思う。ホームページや幼稚園紹介ビデオも考えられていると思う。

最終評価
<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の理事の方にはお便りを届け、理事長には直接お話を伺うようにしている。ただ、後期もコロナ感染拡大が続き、地域の中での行事がほぼできなかった。保護者の方にはこの項目も見えにくくなっていると思う。 今年度も特色の一つである子ども用の織機の件で地域の方にお話をいただき、地域の「織成館」の見学もさせていただいた。 「乾隆学区『快適でエコな居場所づくりプロジェクト』」についても参加し、地域女性会の方とのつながりは継続した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全会の方には園外保育のほか、年長児交通安全教室の協力も得られた。 ・アンケート結果 ③A 43% B 54% C 3%
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も地域参加行事がすべて中止になったため、園児が直接出向いて交流することは全くできなかった。2年連続で地域の行事に参加できなかつたのはとても残念である。 ・保護者参観もできない状況の中で、園での行事に地域の方を招待することもほとんどできていない。コロナ禍としての負の面は大きく、次年度に向け善後策を講じなければならない。 ・本園の特色として、個別に関われる地域の取組や特に織物関係については地域の方のお世話になり実施することができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方には、実際に園の様子を見ていただく機会がもてなかつたので、地域だよりの回覧を継続してきた。次年度も内容を工夫し続けたい。 ・学校運営協議会理事の方には、定期的に出向くことでご意見をいただくことができたが、幼稚園のホームページを見ない方にも届くように、クラスの様子がわかるお便りを情報発信の一つとして毎月配るようにした。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が2年間も続き厳しいのは地域の活動も同じである。その中でもできる取組を考え取り組んでいるのが良い。地域行事ができるようになった時に自然と活動できるように心の準備はしておいてほしい。 ・コロナ禍でも幼稚園に力を貸していただける方がいて有難い。地域の中で共にできることを考えておくのが大切だと思う。特に機織は特色として続けてほしい。

(6) 教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <p>教職員一人一人が生き生きとした姿で子どもと向き合い、心豊かな生活を送る時間を確保する。</p>
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園行事の精選を考える。 ・働き方改革の研修を行う。 ・会議の効率化と分掌の適正化を図る。 ・教職員一人一人が勤務時間を意識し、子どもと向き合う時間を十分に確保する。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間への意識と働く意欲（超過勤務の削減の目標値の設定） ・年休取得率 ・アンケート項目⑦「教職員は生き生きと働いている」

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で仕事内容には変化が出ている。対外的な仕事が減った分、コロナ対策の仕事は増えている。物理的な消毒作業は毎日時間がかかる仕事であるが、心理的な子どもの感染対策を考えた保育についてはもっと時間をかけなくてはいけない。 ・行事の精選や会議の効率化については、コロナ禍であるがための外からの要因もあるが、働き方
--	--

改革を意識した変更も少しづつ進めている。

- ・アンケート結果⑦A70% B30%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・コロナ禍での取組の変化については、物理的にも心理的にも大きなものであるが、校務支援員の配置などの手立てもあり、特定の者に仕事が集中することなく、分担できる部分はうまく調整できている。
- ・教職員の人数が少なく、それぞれの仕事が多岐に渡るが、それが計画的に仕事をすることで時間内に仕事が収まるように努力している。必要に応じて年次休暇もとれるよう、互いに協力している。
- ・働き方改革については今後も意識して教職員の共通理解を図りたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・コロナ禍のため変わった部分と働き方改革として変えた部分をしっかりと見極めながら、コロナ収束後を想定して保育を考えていきたい。
- ・教職員が生き生き働くことは、このテーマの一番であると考える。自分がやるべきことは勿論、やりたいことも十分にこなした上で、残業が減るように今後も自分自身の仕事について振り返り、個々の段取り力をつけていくように働きかけたいと考える。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・会議の効率化を含め、働き方改革を意識した勤務状況であるか検証する。
- ・年休取得率（年休がとりやすい環境か）
- ・保護者アンケートや意見から検証する。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・教職員が生き生き働いているのは、子どもにとっても良いことである。働きすぎにならないように考えることは大事である。
- ・コロナ禍で消毒作業など増えているのは大変であるが、今年度も校務支援員などの人員が配置されているのはよいと思う。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・今年度も集合研修が減り、ほとんどがオンライン研修になった。出張が減ったことで、校内の会議の候補日が増え、ゆとりをもった計画ができた。
- ・コロナ対策として消毒作業は増えた仕事であるが、校務支援員の配置等により、人手が増え分、以前より一人一人の仕事の軽減にはつながっている。
- ・地域行事などが減り、行事が例年と違う形となった。コロナが収束した後に働き方改革を意識した新しい地域との関係性や行事の精選を考えなくてはならない。
- ・アンケート結果 ⑦A70% B27%無3%

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・コロナ禍での負担感は否めないが、校務支援員の配置等の手立てもあり、特定の者に仕事が集中することなく、分担できる部分はうまく調整できている。
- ・仕事の効率化を図り、残務時間が目標値になるように教職員一人一人が自分事として働き方改革を捉えられるようになってきている。
- ・働き方改革については今後も意識して教職員の共通理解を図りたい。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人に仕事が重ならないようにするために、校務分掌の表には載ってこない細々とした仕事を把握、共通理解し、自分でなく周りの事にも配慮する雰囲気づくりをしたい。また校務支援員の適切な運用を教職員全体で共通理解したい。 園全体で取り組むことから、一人一人が取り組む目標を明確にし、それぞれがきちんと実践していくことが大切である。研修を通して意識を高めたいと思う。
学校 関係 者評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ関係で仕事内容が変わったところもあるかもしれないが、「教職員は生き生きと働いている」の項目が高評価なのはとても良い事だと思う。校務支援員などの人員増は望ましい。 担任が子どもに関わる時間の確保ができるというのはとても大事である。教職員全体で協力し合えるチーム作りをすることで働き方改革を進めてもらいたい。